

緑生瓦版

2008.09.01

第十六号

北海道支所の近況

みなさんチュウヒという鳥をご存知でしょうか？トビより少し小さいタカの仲間、河川や池の周りなどのヨシ原に生息しています。国内では、主に北海道や東北地方で繁殖しています。が、生息環境のヨシ原の減少に伴い、個体数の減少が懸念される鳥類です。北海道支所のある札幌市近郊では、石狩川周辺などに生息しています。支所では、調査活動の一環として石狩川周辺においてチュウヒの生息状況確認調査を行っています。しかし、本種の繁殖期である春・夏は、調査シーズン真っ盛りであり、なかなか思うように活動できないのが実情です。

まずは、生息数を把握すべくと考える調査を実施しています。今後は繁殖の成否や巣立ち雛の状況なども調べていく必要があると感じています。

北海道支所

伊藤 彰朗

緑生研究所って、どんな会社…？

～ マイナーな生物調査の巻 ～

クモ類のプロフィール

クモってどんな生き物？



昆虫類と同じようにみられますが、分類学上では昆虫類や甲殻類（エビ、カニなど）からは遠いグループになります。クモの仲間としては、サソリ、ヤイトムシ、カニムシ、ダニ、ザトウムシなどがあげられますが、一般的には名前を聞いてもその姿をイメージすることが難しいものばかりです。アセスや河川水辺の国勢調査などでいわれるクモ類は「真正クモ類（クモ目：Araneae）」に該当するグループです。日本では約1,400種が確認されています。



クモの見た目がちょっと…

昆虫類とクモ類の形態的な違いは、一般的に以下のような部分になります。

ムシ	クモ
体節：頭部・胸部・腹部	頭胸部・腹部
脚：3対6本	4対8本
翅：2対4枚	なし
眼：複眼・単眼	単眼8つ

さらにクモ類は、強弱はあるものの餌となる生き物を麻痺させるための毒を持ち、糸を出すための器官を持っています。SF映画などでクモが口から糸を吐くシーンを見かけることがありますが、実際には腹部に出糸器官があり、脚を使って上手に糸を紡いで利用します。

クモ類は科ごとに眼が特徴的な並び方をしているので同定の際のキーになります。種まで同定するためには、生殖器官の形状を比較検討する必要があります。雌では腹部の外雌器を、雄では触肢の先端の形状を実体顕微鏡などで観察します。写真による分かりやすい図鑑もありますが、新種が毎年のように報告されているので、図鑑のみに頼らず学会誌などをまめに収集し、資料を整理することが大切です。主な学会としては、日本蜘蛛学会、東京蜘蛛談話会、中部蜘蛛懇談会、関西クモ研究会などがあります。

森の中から家の中まで、意外と目にする機会が多い身近な生き物ですが、見た目やクモの巣（網）の持つイメージから嫌われることが多い生き物のひとつになっています。しかし、よく観察すれば、そのコミカルな動きや網の美しさなど、多くの魅力的な部分に気づくことが出来ると思います。今回のお話は、そんなクモ達に皆さんが少しでも興味を持っていたらいいよう、そのきっかけとなればと思っています。余談ですが当社には、こうしたマイナーな生き物たちにも深い愛情を持つスタッフが数多くそろっています。（調査部 坪山聡）

クモの暮らしをみてみよう！

“クモ＝網”というほど強い結びつきがありますが、網を張らずに地表や樹上などを歩き回る種類も数多くみられます。畑や河原などでみかけるコモリグモやユーモラスな動きをみせるハエトリグモなどがこの仲間です。かわった種類としては、水草の間などにドーム状の住居をつくり水中生活をするミスグモや、糸の先端に粘着性のある球をつけ、それを投げ縄のように振り回し昆虫を捕えるムツトゲイセキグモなどがいます。肉食でおもに昆虫類を餌としているため、昆虫がいればどこでも生活できると思われがちですが、意外と環境との結びつきも強いのです。新海栄一氏の「クモ類による環境の評価」（KISHIDAIA(74):33-100）や、八幡明彦氏の「クモのいる自然環境を守るとはどういうことか」（ActaAracnologica, 54(2):147-153）など、指標種としての有用性に関する報告もされています。



クモの世界へ、ようこそ！

ここでは、クモ類に関する本や図鑑を紹介します。一度手に取っていただければ、ちょっとの興味・関心が、より大きな驚きに変わるはずです。それでは皆さん、勇気を出して、クモマニアへの第一歩を踏み出しましょう！

－ 一般書 －

斎藤慎一郎「クモ合戦の文化論」大日本出版、1984年 1200円
新海栄一 訳「クモ・ウォッチング」平凡社、1995年 1800円
宮下直 編「クモの生物学」東京大学出版会、2000年 5200円
八幡明彦 訳「立体しかけ絵本 タランチュラのからだ」講談社、2005年 2940円

－ 図鑑 －

新海栄一「日本のクモ」文一総合出版、2006年 4200円
千国安之輔「写真日本クモ類大図鑑 改訂版」偕成社、2008年 31500円



写真だより



ミゾソバ *Persicaria thunbergii*

水田や用水路などでよく見かける植物のひとつです。溝に生える蕎麦に似た草（花）という意味で「溝蕎麦」という名が付いています。ウシノヒタイという別名を持ち、葉の形が牛の顔を正面から見た形に似ています。

オオシオカラトンボ

Orthetrum triangulare melania

身近なトンボのひとつで、雄は写真のような黒藍色の姿をしていますが、雌は黄褐色です。明るい開放的な環境が好きなシオカラトンボとは棲み分けているようで、木々に囲まれた閉ざされた環境を主な生活空間として利用しています。



アンケートのお願い！

Q.「緑生瓦版」のなかで取り上げてほしい内容や、ご意見、ご感想などを教えて下さい。

差し支えなければ、会社名、所属、氏名をお教え下さい。

会社名：

所属：

氏名：

ご協力ありがとうございました。

恐れ入りますが、アンケートの回答は、緑生研究所(坪山)宛に FAX(042-487-4334) をお願いいたします。

編集後記

お読みいただき、ありがとうございます。
第十七号は、灯台記念日にあたる十一月一日の発行を予定しています。特集では『映像への取り組み』として、当社が行っている動植物の生態撮影を紹介します。

秋の味覚と言えば何を思い浮かべますか？私は梨です。私の故郷は梨の特産地で、梨が届くたびに秋が来たと思います。
ところで梨には青と赤があります。皮が青い品種はほんのり甘くてみずみずしく、赤い品種はしっかりと甘くて独特の風味があります。お盆過ぎに出回る幸水・秋水は中間の特徴をもつ早生の品種です。みなさんはどの梨がお好みですか？



コラム

